

# 私も言いたい



opinion

## がん条例2年目 予算内容を憂う

◇昨年4月1日、県がん対策推進条例が施行された。同条例は、初の議員提案として策定した政策条例だ。2人に1人ががんで亡くなることをうけ、県はがん対策を県政の最重要課題の一つとしている。しかし、現時点では医療連携や看護・介護との連携などどれも十分ではないように思える。また、条例にも盛り込まれているがん教育やがん治療と就労に関する課題も多い。さて、本年度のがん対策予算はどのくらいだろう。

◇昨年度の億3585万円だったものが、本年度は1億6686万円となっているようだ。予算だけががん対策の充実に左右するものではないし、機器など大きな予算を伴うものを用意した後は、数字的には減少するのは当たり前かもしれない。しかし、議員提案で策定した条例に盛り込まれている施策に対し、できる限りの手を打たないのはおかしくないだろうか。

◇条例そのものの普及啓発、外来に移行している医療と看護・介

護の具体的な連携への道筋、がん治療と生活が両立できる環境整備…。そして小児がん医療と治療後の環境整備。本年度の計画にはどのように盛り込まれるのであろうか。東京に全国47都道府県からがん対策を市民視点で充実させたいと思う仲間が集まり、それぞれの自治体のがん対策を分析し、出身都道府県に生かそうと学びあう。私はその成果をここでどのように提案すればいいだろう。山梨県のがん対策充実に願う私にとって、ちょっと切ない条例化2年目となった。

(甲府市・若尾直子58歳)